


## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

| 項 目  | 前回（7 年 10 月判断） | 今回（8 年 1 月判断） | 前回<br>比較  |
|------|----------------|---------------|---|
| 総括判断 | 持ち直している        | 持ち直している       |  |




（注）8 年 1 月判断は、前回 7 年 10 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。


## （判断の要点）

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが緩やかに持ち直しつつあり、輸送機械が回復しつつあることなどから、持ち直しつつある。雇用情勢は、有効求人倍率がこのところ低下しており、新規求人数が前年を下回っているものの、企業の人手不足感が引き続き高い状況にあることなどから、緩やかに持ち直している。

## 【各項目の判断】

| 項 目 | 前回（7 年 10 月判断） | 今回（8 年 1 月判断） | 前回<br>比較 |
|-----|----------------|---------------|----------|
|-----|----------------|---------------|----------|

|      |                       |                       |   |
|------|-----------------------|-----------------------|---|
| 個人消費 | 一部に弱さがみられるものの、持ち直している | 一部に弱さがみられるものの、持ち直している |  |
| 生産活動 | 持ち直しつつある              | 持ち直しつつある              |  |
| 雇用情勢 | 緩やかに持ち直している           | 緩やかに持ち直している           |  |

|            |            |             |   |
|------------|------------|-------------|---|
| 設備投資       | 7 年度は増加見込み | 7 年度は増加見込み  |  |
| 企業収益       | 7 年度は増益見込み | 7 年度は増益見込み  |  |
| 企業の<br>景況感 | 「下降」超幅が縮小  | 「上昇」超に転じている |  |
| 住宅建設       | 前年を下回っている  | 前年を下回っている   |  |
| 公共事業       | 前年度を上回っている | 前年度を上回っている  |  |

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、持ち直している」

スーパー販売は商品の値上げの影響等により、前年を上回っている。百貨店販売は飲食料品等が低調となっており、前年を下回っている。コンビニエンスストア販売はキャンペーン効果等により、前年を上回っている。ドラッグストア販売は飲食料品や日用品などが好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売は季節商品等が好調となっているものの、インテリア等が低調となっていることから、前年並みとなっている。家電大型専門店販売はパソコン等が好調となっており、前年を上回っている。乗用車販売は一部車種の受注の抑制等により、前年を下回っている。旅行は国内旅行が堅調となっているほか、海外旅行にも持ち直しの動きがみられる。このように、個人消費は、一部に弱さがみられるものの、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 物価高を背景とした一点当たり単価の上昇により、購買点数は前年を下回っている。一方、米や卵などの価格高騰の影響もあり、売上高は前年を上回る水準を維持している。(スーパー)
- 価格上昇の影響から、お歳暮は贈答先を限定する動きが強まっており、飲食料品を中心とした歳暮需要は低調となっている。一方、初売りでは菓子類や総菜などの食料品が全体として好調で、年始を機にやや贅沢な消費を行う動きがみられる。(百貨店)
- プロモーションを行ったコラボ商品等は好調に推移している。一方、他業態との競合に加え、クマ出没による外出控えも影響したのか、客数は伸び悩んでいる。(コンビニエンスストア)
- 競合他社の価格を踏まえ、手ごろな価格で販売していることが功を奏しており、飲食料品や日用品が好調となっている。(ドラッグストア)
- 今年は昨年と比べ気温の低下が早く、暖房器具や灯油などの冬物商品の動きが良い。一方、節約志向により、一層耐久財の買い控えがみられ、インテリアは全体的に低調となっている。(ホームセンター)
- 一部 OS のサポート終了に伴う買い替え需要により、パソコンが売上げをけん引している。また、青森県東方沖を震源とする地震の発生を受けて防災意識が高まり、石油ストーブ等に動きがみられる。(家電量販店)
- 東北地方において自動車は必需品であり、消費者の購買意欲は変わっていないものの、一部の車種で納期の長期化や受注の停止があり、安定して販売することができない。(自動車販売店)
- クマ被害報道による安全面への懸念や、物価高を背景とした節約志向が強まる中でも、当館が提供する付加価値や満足度の高いサービスには支出を惜しまないお客様が一定程度みられる。(宿泊)
- 海外旅行は、一部で円安を背景とした様子見姿勢があるものの、コロナ禍明け以降の需要回復が継続しており、全体としては持ち直している。近年見送られていた団体客の再利用も一定程度みられる。(旅行代理店)
- 初売りでは、紅茶やコーヒーなどの輸入嗜好品の福袋を中心に行列が発生し、価格上昇を見越したまとめ買いの動きがみられる。(専門店)

### ■ 生産活動 「持ち直しつつある」

電子部品・デバイスは EV (電気自動車) を中心に海外の自動車向けで弱含んでいるものの、海外のデータセンター向けが増加していることなどから、緩やかに持ち直しつつある。輸送機械は国内向けを中心に回復しつつある。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける需要を背景に持ち直している。このように、生産活動は、持ち直しつつある。

- 海外のスマートフォン向けは、新製品需要が前期から継続しているものの、車載向けは、EV (電気自動車) の需要鈍化や他社との競争により、厳しい状況である。(電子部品・デバイス)
- データセンター向けは、AI (人工知能) 需要が拡大していることから、好調となっている。(電子部品・デバイス)
- 人気車種の受注残を解消するため、高操業が続いている。(輸送機械)
- AI (人工知能) 向けは底堅く推移していたが、このところ、受注が増加していることから、操業度を引き上げる予定である。(生産用機械)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、求人数が求職者数を上回って推移しているものの、このところ低下している。新規求人数は、人件費の上昇等を背景に、一部の企業で求人を見合わせる動きがみられ、前年を下回っているものの、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI は「不足気味」超となっており、企業の人手不足感は引き続き高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 賃上げに伴い人員体制や採用計画を見直しているとの声のほか、一部の企業では、求人を続けても応募がないことから、求人を諦めたとの声も聞かれた。(公的機関)
- 繁忙期には、子育て等を理由に退職した元社員を臨時雇用しており、採用・教育コストを削減できている。(小売)
- 特に有資格人材の不足感が強く、操業に深刻な影響が発生している。採用活動の強化に加えて、業務効率化により生産性を高めていく方針。(パルプ・紙)

- **設備投資** 「7年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期
- 製造業では、情報通信機械等で減少見込みとなっているものの、非鉄金属、生産用機械等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
  - 非製造業では、小売等で減少見込みとなっているものの、金融・保険、物品賃貸等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 環境負荷低減のための投資を予定していることから、増加見込みとなっている。(非鉄金属)
- 建物老朽化による営業店の新築移転を予定していることから、増加見込みとなっている。(金融・保険)

- **企業収益** 「7年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期
- 製造業では、情報通信機械等で減益見込みとなっているものの、食料品、輸送用機械等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
  - 非製造業では、不動産等で減益見込みとなっているものの、卸売、小売等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

- **企業の景況感** 「『上昇』超に転じている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期
- 現状(7年10~12月期)は、「上昇」超に転じている。先行きは、8年1~3月期に「下降」超に転じ、8年4~6月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

- **住宅建設** 「前年を下回っている」
- 新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、分譲いずれも前年を下回っている。

- 潜在的な住宅需要はあるものの、価格が上昇していることに加えて、今後住宅ローン金利も上昇していくことが予想されるためか、購入に踏み切れていない。(建設)

- **公共事業** 「前年度を上回っている」
- 前払金保証請負金額は、国、県などで前年度を上回っており、全体でも前年度を上回っている。
- **消費者物価** 「前年を上回っている」
- **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
- **企業倒産** 「件数、負債総額とも前年を下回っている」

### 3. 各県の総括判断

|     | 前回 (7年10月判断) | 今回 (8年1月判断)  | 前回比較 | 総括判断の要点  |
|-----|--------------|--------------|------|--|
| 宮城県 | 持ち直している      | 持ち直している      | ➡    | 個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しており、生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。         |
| 青森県 | 持ち直している      | 持ち直している      | ➡    | 個人消費は持ち直しており、生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は横ばいの状況にある。                        |
| 岩手県 | 一進一退の状況にある   | 一進一退の状況にある   | ➡    | 個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は弱含んでいる。            |
| 秋田県 | 緩やかに持ち直しつつある | 緩やかに持ち直しつつある | ➡    | 個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は横ばいの状況にある。     |
| 山形県 | 持ち直しつつある     | 持ち直しつつある     | ➡    | 個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は足踏みの状況にある。                    |
| 福島県 | 緩やかに持ち直しつつある | 緩やかに持ち直しつつある | ➡    | 個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。 |